河合塾エンリッチ講座 2015

現代（いま）を生きる日本史

―江戸時代の身分の様相を、時代の推移とともに考える―

◉講演：須田　努（明治大学情報コミュニケーション学部教授）

◉司会：石川晶康（日本史科講師）

21世紀に入って歴史学は大きく変貌を遂げつつあると言えます。
単に古いことを調べたり、知るということではなく、複雑さをいっそう増している現代社会の中で、自分をどう位置づけるのかを考えるための学問です。

たとえば、江戸時代の身分制度について考えてみましょう。
関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、翌年、検地を実施して大規模な大名の配置換えを実行、密かに石田光成と通じていた佐竹義宣の領地（常陸）を奪い、十男の徳川頼宣に与えています（のちの水戸藩の誕生です）。

この時期、幕藩体制の基盤となるさまざまな制度が形成されています。検地による領地の把握、武家諸法度・禁中並公家諸法度による大名・朝廷統制、禁教と鎖国、農政整備、そして今回取り上げる身分制度です。

江戸時代の身分制度に関する研究は、1980年代以降、飛躍的に進展しました。いわゆる「士農工商、穢多・非人」など以外にも、僧侶・儒者・役者といった人びとが存在していた事実に注目し、「士農工商、穢多・非人」を基幹的身分、それ以外の多様な存在を周縁的身分という概念で理解し、とくに周縁的身分の実相を解明する研究が進みました。

この講座では、江戸時代の身分の様相を時代の推移とともに考え、現在を生きる日本史としてとらえ直したいと思います。

◉プロフィール　須田　努（すだ つとむ）

明治大学文学部卒業、高校教員を経て、早稲田大学大学院文学研究科へ進学、2002年に博士の学位を取得。河合塾の日本史科講師として大学受験の指導経験もある。専門は、日本近世・近代における社会文化史・民衆史。現在所属する明治大学では社会文化史を専門として指導している。東京歴史科学研究会の代表委員を務め、アジア民衆史研究会をはじめさまざまな学会に所属する。

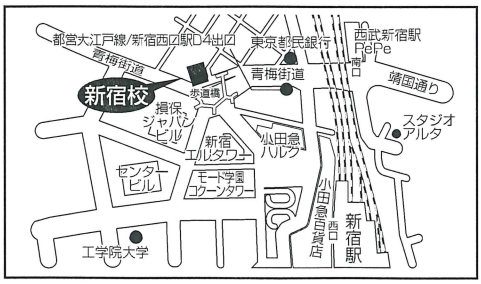
■ 主な著作

『「悪党」の一九世紀―民衆運動の変質と"近代移行期"』　青木書店 2002年
『イコンの崩壊まで「戦後歴史学」と運動史研究』　青木書店 2008年
『幕末の世直し 万人の戦争状態』　吉川弘文館 2010年
『三遊亭円朝と江戸落語』　吉川弘文館 2015年
共著
『現代を生きる日本史』　岩波書店 2014年
編集・共編
『近世人の事典』　東京堂出版 2013年
『薩摩・朝鮮陶工村の四百年』　岩波書店 2014年

7月18日(土)　15:00～16:30
新宿校　501教室

入場無料 申込不要

〒160-0023　新宿区西新宿7-12-1
0120-198-520
●JR・小田急線・京王線・東京メトロ丸ノ内線・都営新宿線／新宿駅西口より徒歩3分
●都営大江戸線／新宿西口駅D4出口より徒歩1分
●西武新宿線／西武新宿駅南口より徒歩3分



※どなたでも自由に参加できます。